

表紙の解説

最後の舳（はしけ）

（旧）日本郵船の前、北運河に最後に残された舳（はしけ）は老朽化のため 2020 年に解体されてしまい、今はもうその姿を見ることは出来ません。

舳とは、小樽運河が完成した当初から昭和初期にかけて活躍した運搬船のことを指します。小樽運河が主に石炭や魚介類といった物資の輸送手段として機能していた頃、舳はその主役でした。運河沿いには多くの倉庫が立ち並び、舳はそれらの倉庫と商船が停泊する海との間で物資を運ぶ役割を果たしていました。

その舳は、もう現在の小樽運河で見ることができませんが、その役割と存在は多くの文献や古い写真で確認することができます。また、多くの作家による絵画の中で数多くの舳が描かれており、今も私たちの記憶と文化に生き続けています。



写真:© 中山 仁史 /K2.